

亜急性硬化性全脳炎に対するリバビリン療法

研究分担者: 熊本大学医学部附属病院 発達小児科 野村恵子

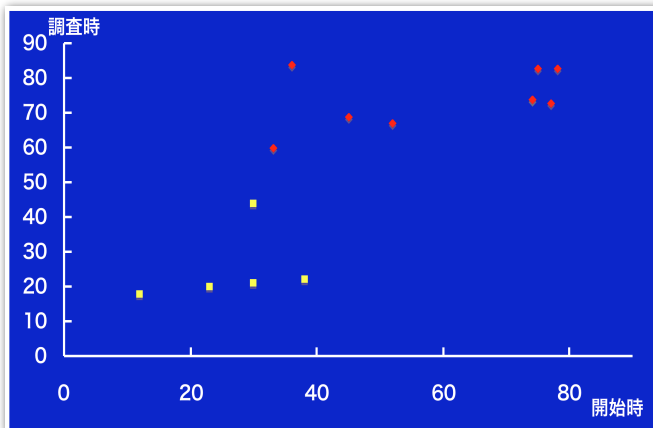
NDI臨床症状スコアで見る治療効果

治療効果	改善	不変	増悪
スコアの変化	-2未満	-2~+2	+2より大
症例数	5例	3例	12例

治療中に見られた有害事象

- 傾眠傾向(14例)
- 発熱(9例)
- 口唇腫脹(8例)
- 全身倦怠感(6例)
- 肝機能障害(5例)
- 細菌性髄膜炎(5例)
- 嘔気・嘔吐(4例)
- 眼球結膜充血(3例)
- 皮膚症状(3例)
- 尿路感染(3例)
- 頭痛(2例)
- 白血球減少(2例)
- 貧血(2例)
- 血圧低下(2例)
- 末梢神経障害(1例)
- 口唇歯肉発赤(1例)

治療開始時と調査時のNDI臨床症状スコア



解説

1. リバビリン療法を実施した20例の内、改善・不変の8例で効果があったと考えられる。(NDI臨床症状スコアが低い程、病状が良いことを表す。)
2. 治療中に見られた有害事象の内、細菌性髄膜炎には注意を要する。それ以外の有害事象は治療終了とともに回復した。